

長畝ふるさと通信



【2022年9月号】

■ 稲刈り、なかなか進まず 異常気象が異常でなくなる日常

9月に入って台風の影響か、秋らしくない残暑が続きました。とどめの台風14号はそれまで何とか酷暑に耐えて立っていた稲を一気に踏み倒していきました。7月下旬から8月上旬は連日30度越えの夏日が続き、その影響で高温障害による「未熟粒」が例年よりも多く見受けられました。穂肥を追肥していなければもっと被害が拡大していたと思います。

倒伏した稲は一定方向に倒れておらず、様々な角度で様々な方向に倒れているため、コンバインでの刈取作業も思うように進みません。刈取適期を過ぎてしまえば更に品質低下に直結する為、気が気ではありません。このままでは日本の稲作の適地ではなくなってしまうのではないかとさえ思える状況です。地球温暖化による気候変動だと言ってしまえばそれまでですが、近年日本中で



発生する自然災害が日常化してしまうことへの恐怖を感じます。例年なら10月一週目には終わる稲刈りですが、今年は10日を超えてしまうでしょう。厳しい状況ではありますが、皆さんにお届けするおコメはしっかりと「一等米」を確保しますのでご安心下さい。

■ 値上げラッシュですけど・・・

原材料価格の高騰や円安を受けて、食料品の値上げが累計2万品目を突破するそうです。新米が出回る10月は更に値上げラッシュになるとか・・・。ニュースではハンバーガーが30円値上げになるとか、ビールの値上げ前に爆買いするとか国民の食生活を脅かす報道が連日にぎわっていますが、ところでコメはどうなるの？。新米が出回る前に古米の在庫がまだ大量にあって、安売りスーパーではこの状況を逆手にとって「生活応援、値上げしません」とか言ってコメの安売りで在庫処分しているそうで・・・これでは新米も高く売れせんわな。最も心配なのは最後に我慢するのが「おコメ」になりはしないかと・・・ただでさえ消費の落ち込みが止まらないコメが更に「我慢の砦」となって益々食べなくなったり、安いおコメに切り替えられたり・・・。日本のおコメ地位向上委

員会でも作って国会前でデモ行進したい心境です。デモ行進と言えば国葬反対デモが記憶に新しいですが、何について反対なのかゴツチャになっていたように見えました。故人を弔う気持ちはみんなにあるはずなのに、後に引けなくなって強行し、結果的に台無しになってしまった内閣の責任は重いと思います。(個人の見解で余談でした...)。秋の国会で景気対策についての議論が出るとは思います、「え～慎重に審議し検討してまいります」のお決まり文句はもう聞き飽きましたね。



■ 思い出がよみがえる...

9月最後の日曜日、子供たちと久々に稲刈りをして「はぜかけ」をしました。稲刈りをした事の無い子供たちは鎌の使い方もぎこちなく、それでも楽しそうに一生懸命汗を流していました。そんな子供たちを見ていたら、自分の子供の頃の稲刈りの風景がよみがえりました。

ボクの小学校の頃(昭和40年後半)は農繁期になると「田植休み」と「稲刈り休み」なるものがそれぞれ一週間づつあって、百姓の子は家の手伝いをさせられたのです。当時、稲刈りはモチロン手刈り、家族と親戚が手伝いに来て1日中稲刈りをして、夕方近くになるとリヤカーに稲を積んで家まで運びます。父がリヤカーを引いて、母が後ろから押す。ボクはリヤカーに積まれた稲の上に寝転がって秋空を眺めながらアケビを頬張り家まで帰ったものです。うちへ帰ると5~6メートルの高さはあったと思いますが、はぜに稲をかける作業を暗くなくてもやっていました。母が下から稲を放り投げ、父がはぜにまたがって稲をはぜ木に架けていく...そんな両親の姿をずーと見ていたような気がします。稲刈りの合間にははぜによじ登って、手作りのグライダーを飛ばすのが楽しくて、今考えればその頃は高いところが怖くなかった...今は屋根にも登れない...。こんな思い出話を今の子供たちに聞かせても、どこか別の国の話に聞こえるでしょうね。



■ 10月中旬には新米をお届けします。おかわりは自由です。